（別紙１）

平成２０年５月
環境バイオマス政策課

食料と競合しない日本型バイオ燃料生産拡大に向けての対話集会 結果概要

１．参加者数　　１，５８９名

２．意見数　　３０１件

・　バイオ燃料の生産拡大のためには、原材料生産コストの低減や製造コストの低減はもちろん、交付金や基金による支援も必要。
・　稲わらは、畜産の重要な粗飼料です。燃料との競合が懸念されますが、燃料用との棲み分けをきっちり行って欲しい。
・　バイオエタノールについては、ＥＴＢＥ方式とＥ３方式のどちらかに統一しないと、企業の二重投資や消費者の混乱を招くおそれがある。
・　プラント建設コストの補助金制度に加え、運転コストの補助金制度も検討していただきたい。
・　耕作放棄地を利用したバイオ燃料の生産をもっと進めて欲しい。

３．各ブロックの状況

ブロック	会場	出席者等	意見数	主な意見
北海道 ４／２４	札幌エルプラザ（札幌）	齊藤整備部長 参加者１６４名	２０件	・小規模施設でできるバイオガスについても、支援を進めて欲しい。
東　北 ４／２１	仙台国際センター（仙台）	佐々木審議官 参加者２３８名	３５件	・海外からのバイオ燃料輸入は規制すべき。 ・バイオマスの利活用について、国民の理解醸成が重要。
関　東 ４／２４	関東農政局（さいたま）	佐々木審議官 参加者１６５名	５９件	・バイオ燃料はビジネスとして成立するのか。 ・エネルギー政策は途中で行き詰まることが多いと感じている。農林水産省が中心となって、省庁間の連携・調整をしっかり行い、バイオ燃料を推進して欲しい。
北　陸 ４／２５	（財）石川県地場産業振興センター（金沢）	西郷課長 参加者２５８名	４２件	・バイオ燃料を製造する際の、二酸化炭素収支及びエネルギー収支について、今後しっかりと調査して欲しい。
東　海 ４／２２	電気文化会館（名古屋）	齊藤整備部長 参加者１７８名	２４件	・バイオマスのマテリアル利用について支援策はどうなっているか。 ・「食料と競合しない」等ときれい事ではなく、コメを使って燃料の製造を進めて良い。コメの用途が広がれば農家の諸問題が解決に向かうと思う。
近　畿 ５／１５	武藤記念ホール（大阪）	佐々木審議官 参加者２０１名	４３件	・農林漁業バイオ燃料法案の関連事業について詳細を教えて欲しい。 ・水産バイオマスの利活用を推進すべき。 ・バイオマスの利用拡大についてどのように考えてるのか。
中国四国 ４／３０	中国四国農政局（岡山）	齊藤整備部長 参加者１０４名	２５件	・バイオ燃料の種類はどのようなものがあるのか。
九　州 ４／２２	熊本市国際交流会館ホール（熊本）	小栗研究総務官 参加者１６５名	３３件	・補助金に頼らずに、バイオ燃料を事業として成立させる方策が必要。 ・もっと手厚い税の軽減が必要。
沖　縄 ４／２３	沖縄県立博物館・美術館（那覇）	小栗研究総務官 参加者１１６名	２０件	・沖縄に適したバイオマス作物にはどのようなものがあるか。